



森のなかま

2014年6月号
NO. 74 (継続219号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

発行人 久保 重明



(波止場会館)

平成26年度 第1回ブラッシュアップ研修

「神奈川県森林現況について」(公財)トラストみどり財団主催
4月19日(土)10:00~15:00、波止場会館

< 湯浅 鉄男 11期 >

「県民に伝えてほしい森林のこと」についての研修会が、数少なくなった古き横浜を感じる大横橋入口付近の波止場会館で開かれた。狭い多目的ホールには森林インストラクター37人が集まった。

午前中は神奈川県水・緑部森林再生課、江口主査の「神奈川県産木材の利用推進について」。まず岡山県西栗倉村の積極的な取り組みをビデオで見て勇気づけられる。ところがスライドに示された神奈川県の現状はというと、森林面積が全国44位、木材生産も44位。山の傾斜がきつく、コストが高い、林業労働力の減少など、林業がほとんど産業として成り立っていないと分かる。一方では全国2位の木材消費県。神奈川県の林業再生となると一筋縄ではいかないが、県産木材をできるだけ利用し、利用を訴えていくのが第一歩なのかなと思う。

かながわ県産木材
産地認証マーク



かながわブランド県産木材
品質認証マーク



江口講師と
講義風景及び
スライドの一部



午後は自然環境保全センター水源の森林推進課、十鳥副技幹の「水源の森林づくり事業の成果と今後の取り組み」。昼ごはんを食べて眠くなるころであったが、興味深い話が出て背筋が伸びた。そう言われれば思い当たる荒廃林の減少。「一昔のような激しい荒廃林は減っている」という。同時にボランティア林も整備が進み、安全な活動を行える場所が少なくなっている。県民のボランティア活動への意欲が高いため、県は新たなボランティア林の確保を進めるという。森林インストラクターがそうした森林好転の一助になっているとしたら、これはうれしい進展だ。間伐作業の後のすっきりした森林風景を見たような感じを覚えて、少しやる気が出てくる。

神奈川県の森林はまだ課題が多いが、少しずつ良い方向に向かっている。その思いを糧として、微力ながら今後とも活動にかかわっていきたいと思った。



十鳥講師と
講義風景及び
スライドの一部



(写真撮影:湯浅氏 11期、広報 松本)



森林部会 『林業家見学会 ～(有)サトウ草木訪問～』

場所:相模原市緑区、 日時:第1回 3月21日(金)、第2回 4月9日(水)

< 森林部会運営委員 飯澤 恒 9期 >



きこりのお店 『青根草木館』

森林部会ではインストラクター活動の一助とするために毎年森林施業を生業とする林業家の見学会を行っています。今回は、首都圏にありながら過疎化が進み、準限界集落と言われている青根で、森林の育成と、その資源の活用、林業と地域とのかかわりを大切に活動している(有)サトウ草木の見学会を2回に分けて実施しました。

第1回は3月21日に24名が参加し、林業を通して青根を元気にしていきたいとの佐藤社長の強い熱意で建築した「青根草木館」を訪問しお話を伺いました。「青根草木館」はきこりのお店として雇用の創出や地元野菜の販売に加えて町と田舎をつなぐ交流の場として活用されています。

午前中の第1部はその研修室で佐藤社長に林業経営の現状と課題を講演して頂きました。第2部はサトウ草木が整備した青根小学校の学校林と同社が建てたモデルハウスを案内して頂きました。

午後はこれも同社が補助金を活用して整備した水源林の散策路を案内して頂きました。



講演する佐藤社長



学校林の展望台



未だ雪が 水源林の中を散策

第2回は4月9日に14名が参加し、津久井吉野財産区のサトウ草木の伐採・集材の作業現場を見学しました。この日は、伐採を終えた木材を、重機を使って集材していました。初めて見る林業機械化の現場でしたが、スイングヤードがみるみる内に木材を集め、別の重機がそれをトラックに積み込みやすいように道路わきに積み上げて行く一連の作業を感嘆しながら見学しました。それでも採算は補助金を得てもトントンとのことで、日本における林業経営の厳しさを目の当たりで実感しました。

一連の見学を終え、都市と山村の橋渡しをすることも我々森林インストラクターの大切な役割であると、改めて認識し、今回の見学会を機に佐藤社長とはお互いに双方の得意な分野で協力し合っていくことを約束しました。



集材中のスイングヤード



木材運搬中の重機

森林文化部会

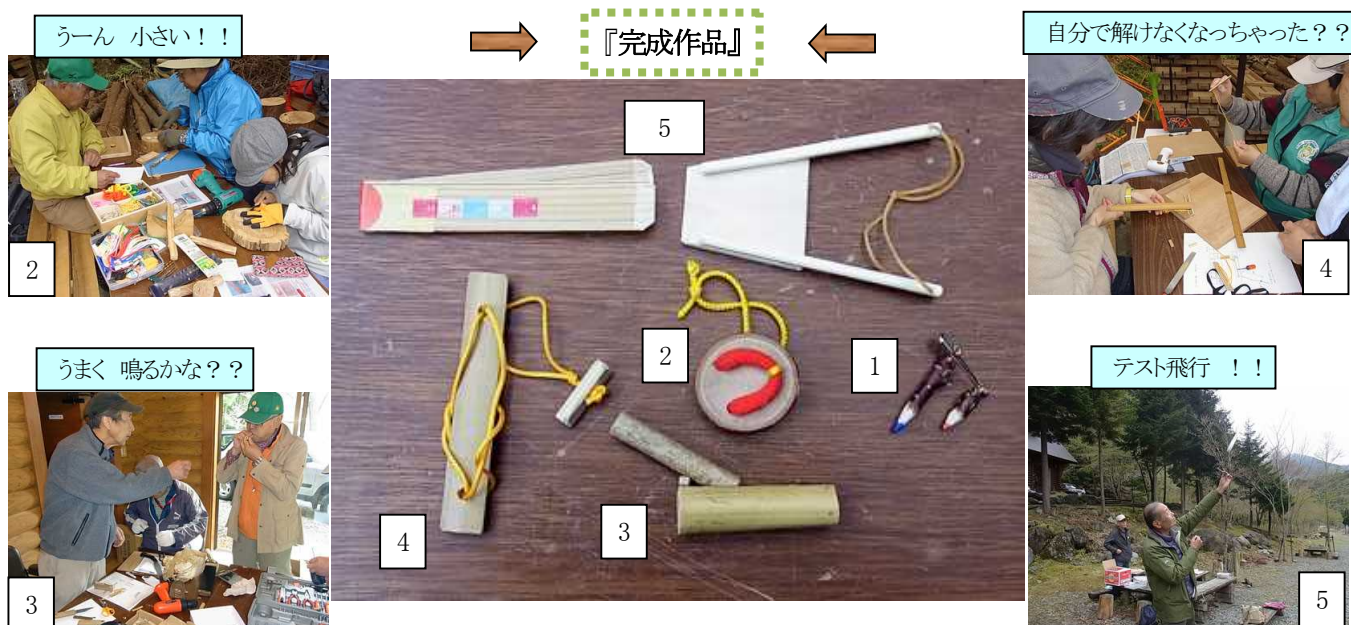
「インストラクターのための森林文化研修会（クラフト教室）」

4月20日（日）、曇り、やどりき水源林にて、参加者16名

< 森林文化部会
小笠原 多加子 10期 >

4月20日にやどりき水源林でインストラクターのためのクラフト教室が開催されました。これはインストラクターとして最低のクラフトの技術を身につけて頂くと言う趣旨での開催でした。当日は4月下旬と言うのに肌寒く今にも降り出しそうな天気でしたが、4期から13期まで16名が参加しました。講師は森林文化部会の運営委員なので和気あいあいでした。

5グループに分かれ、・書けない鉛筆・ミニ下駄・ウグイス笛・竹の知恵の輪・ロケットラワン・木の実のオブジェの6作品を順番に作成しました。いずれも材の切り出しからでしたのでなかなか思うようにできませんでした。しかし、各グループとも会員同士でのコミュニケーションをしながらお互い助け合って何とか出来上がりました。



1 書けない鉛筆 2 ミニ下駄 3 ウグイス笛 4 竹の知恵の輪 5 ロケットラワン

昼食後のデザートに草餅も提供されました。これは森林文化部会では食作りもしていることのお披露目でした。参加者は普段見られない講師の工具箱や工夫された道具、材の保存箱なども目にするのができ好評でした。参加者のお一人が竹トンボを作成した時の端材で作ったブンブンコマのキットを皆さんにプレゼントしてくださいました。

インストラクター養成講座ではクラフト講座がないためか、小刀の使い方がもうひとつの方が多かった印象がありました。

講師 井出①、米本②、落合③、白畑⑦、武者⑦、松村俊和⑧、小笠原⑩

参加者 宮本 聡④、森本⑤、宮本隆久⑥、三浦⑧、村井⑨、杉崎⑩、松山⑩、大塚⑪、松永⑪、渡辺敏幸⑫、溝田⑬、大原⑬、内田⑬、斎藤⑬、北村⑬、星野⑬



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初委嘱されています。

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

戦後の物資の乏しいときからわが国は飛躍的に発展し、生活は便利になり街には物資があふれるようになりました。戦後70年近くも過ぎ、戦後という言葉は今ではもう死語なのかもしれません。科学技術の進歩によって、石油・石炭などの化石資源から多くのものを大量に安価に作りだすことができるようになりました。このようなものまでと思うほどに、天然物を模倣した代替品が出回っている今日この頃です。そのような合成品で生活は便利になり、ゆとりが出てきたことに疑う余地はありません。しかし、その裏で過度の化石資源の利用によりさまざまな環境汚染、健康阻害、地球温暖化の問題などを生み出したことも事実です。そのような中で化学合成品に代わる草木などの植物からの有用成分に世の中の関心が向けられています。天然物が再認識されたのです。

それでは今なぜ天然物が注目されているのでしょうか。その最も大きな理由は化石資源が有限で、化石資源からの製品を使えば温暖化の原因となる二酸化炭素を大気中に蓄積することになるからです。これに対して二酸化炭素を吸収し光合成によって育つ植物は再生可能であり、植物から作った製品がもし燃やされて二酸化炭素を放出しても他の植物がそれを吸収して育つので大気中に二酸化炭素が蓄積されないからです。いわゆるカーボンニュートラルです。

古くからその有用性が認められ伝承的に使われてきた植物成分は数多くあります。森林が生み出す成分、樹脂、精油、油脂、薬用成分などはその良い例です。今でこそ科学技術が発達し多くのものが石油・石炭などの化石資源から天然物に代わるものが大量に安価につくられるようになりましたが、一昔前までは生活に必要なものの多くを森林資源に頼っていたのです。森林からの贈り物は私たちの生活に潤いをもたらしてくれていました。今またその恵みが再認識されるようになりました。森林から生産される産物の代表的なもの、それは家を建てる時に必要な木材です。そして、森林から生産される産物で、木材を除いたすべてのもの、それは国の特用林産振興基本方針にも示されています

第2回 森林は産物の宝庫

香りの図書館 館長 谷田貝 光克 氏

が、特用林産物と言います。言い換えれば森林が作りだす非木材生産物です。そしてその中には、キノコ類、クリ、クルミなどの樹実類、漆などの樹液やハゼ、ナンキンハゼなどの木ロウなど、ワラビ、ゼンマイ、ワサビなどの山菜、オウレン、キハダなどの薬用植物、シキミ、ランなどの花き類、タケ・たけのこ、桐、木の香りの精油、柿渋タンニンなどのタンニン、植物色素、木炭・木酢液が含まれています。



様々な山菜

この種類を見ると毎日の食卓に彩りを添えるもの、病気を癒す薬になるもの、塗料・染料になるものや香料原料など、実に多くのものを森林は提供してくれていることがお分かりになるかと思います。森林の木々などの植物がせっせと長い年月をかけて造ってくれた恵みを使わないで放っておくわけにはいきません。上手に効率よく使ってこそ森の植物にも恩返しができるというものです。



カタクリ（昔は若葉をゆでて食したり、鱗茎から片栗粉が作られていました。森のめぐみです。）

◎ (写真) 谷田貝 氏 提供

◎ (イラスト) 広報 大塚 晴子

活動短信

今回の掲載は
4月5日～4月26日です。
投稿頂いた中には、紙面の都合上、次号以降の掲載になるものもあります。
予めご了承下さい。

◆ 株式会社富士通ソリューションクリエイトシステムズ(FMCS)

森林保全活動 自然観察、枝打ち

日 4月5日(土) 9:30～12:00、晴れ

場 南足柄市塚原 富士通「はじまりの森」

参 大人21名

イ L伊藤⑦、辻村⑨、水上⑬

予定通りにバス到着。塚原林道を歩き始めて自然観察開始。途中「水源林パートナー」の看板で元気に記念撮影。分岐する作業道に入り、ヒノキ幼齢林内を登って行く。まず移動中の安全確認を。歩きながら周辺の森林、咲いていた山桜、参考となる枝打ちの切跡などを織り交ぜてお話をした。さらに登り大山、二の塔が望まれ一休み。下りとなり、ノウサギによる食害やケヤキ植栽を見ながら、隣の県民参加の森づくりで枝打ちを実施しているヒノキ林内を確認しながら下山。

続いて枝打ち現場へ。枝打ちノコで怪我をしないように安全作業をお話して、作業開始。初めてということで一生涯懸命作業されました。手入れされなかったヒノキの林内は、明るくなり見違えるようになりました。やりがいを実感されたようでした。道具類の清掃・整備をして終了。天気に恵まれ笑顔で次の現場へ。事故もなく無事に終えることができました。

(記 水上 正昭 13期)

◆ 日揮株式会社 やどりき水源林パートナー林

新入社員 間伐体験

日 4月10日(木) 9:00～14:30、晴れ

場 やどりき水源林(IJJA、神工舎・ボランティア林A)

参 95名(新入社員91名(外国人も含み)+引率4名)

県 亀田課長、増田主事

イ L佐藤⑤、L小野⑦、宮本④、加藤⑥、伊藤⑦、有坂⑧、黒沢⑧、小澤⑨、大澤⑩、中村⑪、福島⑪、松本⑪、西出⑫、小川⑬、藺田⑬

今回の参加者は、日揮㈱の間伐体験をする新入社員の方方で、95名の参加となりました。初夏を思わせる好天に恵まれ絶好の活動日。インストラクターは、9時過ぎ

に現地に到着、ミーティングの後、倉庫から広場へ道具を搬送し13班に分け個数確認。10時過ぎにバスが到着し、全員で出迎える。広場に集合し、挨拶・紹介・体操・集合写真を撮り現場向かう。

現場で、インストラクターから、間伐の目的・方法・安全確認後作業開始。実質作業時間が1時間内外であった為、伐木終了後、片付けを終わらせコースター作りができた班から、掛かり木のまま作業未了で下山した班もあった。全員に怪我・事故無く無事終了し、参加者は皆初めての体験に満足した様子であった。

解散前に広場対岸に現れたニホンカモシカも参加された方々を見送っていました。インストラクターは、昼食後、使用した道具を倉庫に格納して、作業未了の現場へ赴き作業完了して解散となりました。

(記 藺田 栄哉 13期)

◆ キリンビール株式会社 横浜工場

やどりき水源林パートナー林 間伐

日 4月12日(土) 10:00～12:15、晴れ

場 キリンビール やどりき水源林

参 大人79名(女性19名)

県 増田主事

イ L小野⑦、高橋③、伊藤⑦、渡部⑦、阿部⑧、鈴木⑧、湯浅⑪、澤村⑫、西出⑫、溝田⑬

穏やかな晴天に恵まれ、途中ヤマブキソウ、ベニシダレザクラを眺めつつ、ソメイヨシノ満開のやどりきにキリンビール御一行は9:40過ぎに到着。キリンビール横浜工場長、県自環保様のご挨拶をいただき、インストラクターの紹介、注意事項の説明に続き、準備体操。その後用具を配布し、8名ないし9名の9班を編成して作業地へ出発。途中、タチツボスミレ、マムシグサ、ウラシマソウなどを見つけながら進む。

10:30頃から間伐を開始。経験者が半数以上で、皆さんノコの引き方が上手。危険区域や立ち位置に特段の注意を払いながら、伐倒、枝払、玉切りも手際よく、各班1～2本 合計14本伐採。

11:45頃に作業終了。滑り、転倒、落石に気を付けながら坂を下る。

怪我・トラブルはなく、参加の皆さんは楽しんで、喜んで12:20に帰りのバスに乗車。インストラクター全員はゲートに立ち、お見送り。

その後インストラクターは残りの作業の処理、用具の片

付後、反省会、昼食を摂って、13:45 頃帰路に着く。

(記 溝田 幸和 13 期)

◆ 株式会社メタルワン 環境保全活動(植樹)

日 4月12日(土)11:00~14:00、晴れ
場 愛甲郡清川村宮ヶ瀬 (宮ヶ瀬湖畔園地)
参 (株)メタルワン、グループ企業、取引先企業の
社員と家族200名(大人150名、子供50名)
スタッフ (公財)宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 柳川様
施設課員6名

イ L 小沢⑨、村井⑨、松本⑪、斉藤⑬

今年で11回目となる(株)メタルワンによる環境保全活動で、今回はヤマモミジ50本、スイセン1,200本の植樹を行いました。

快晴の下、メタルワンの戸出社長のご挨拶に続いて宮ヶ瀬ダム周辺振興財団の森田理事長のご挨拶で開会式が始まりましたが、渋滞によるバス(新宿から)の遅れで全員でのスタートはできませんでした。

まずは先着組がヤマモミジの植樹を行いました。デモンストレーションの後、参加者が元気よく植樹を開始。根元にスコップで土をかけて足で踏み固め、小川の水をバケツで汲んでたっぷりかけました。続いてスイセンの植樹に移行したところ、渋滞で遅れたバス組が到着しヤマモミジの植樹を開始。スイセンは斜面での植樹作業でしたが、シャベルで穴を掘り丁寧に植えていました。スイセンの植樹の途中で閉会式の時間を迎えたので作業は終了し、残りは全てスタッフとインストラクターで植樹しました。

満開の桜と春のさわやかな風の中、参加者全員が心地良い汗をかき無事終了致しました。

(記 斉藤 夏葉 13期)

◆ タカナシ乳業株式会社 森林整備 & 森林癒し体験

日 4月19日(土)10:00~15:00、曇り
場 やどりき水源林
参 タカナシ乳業(株) 27名(大人20名、子供7名)
イ L 宮下⑩、友谷①、高崎④、
青木⑩、時田⑩、安井⑫
(研修生) 稲野辺⑬、江頭⑬、源島⑬、
藤代⑬、古館⑬

一面新緑に包まれたやどりき水源林は絶好の活動場所であった。新松田からやどりき水源林へのバスでは、水源林の話や活動について説明。オリエンテーション後、模型の緑のダムを使い、水源涵養機能を実演。草木が無い時の表面を流れる水と草木がある場合の水の浸透に、子供たちはじっくりと観察。

フサザクラが林立するタカナシの癒しの森では、昨年の台風により倒れた木の伐採と玉切り作業。玉切り材を入口通路わきに並べ、通路を整備した。自然にマッチした通路はなかなかの出来栄であった。別の班は、午後からのオブジェの素材を見つけるため川を探検。作業後は、自然の石のテーブルと手作りのベンチで、ハーブティーによるおもてなしを企画。森の中で、水のせせらぎを聞きながら、ハーブティーでリラックスして頂いた。おかわりもあり、なかなか好評であった。

午後は、森林浴、ハンモックでの森林安息、林の中でねっ転がり樹冠のゆらぎを見るなど、ゆったりとした雰囲気です。癒し体験を満喫して頂いた。他の班は、川で発見した木の根を使ったオブジェ作りに挑戦。ドングリをちりばめたオブジェが出来上がった。工場の一角に飾って戴くとのこと。また、全員で丸太切りと刻印入りのコースター作りを楽しむことが出来ました。事故もなく充実した一日になったことでしょう。

(記 宮下 修一 10期)

◆ 県立21世紀の森 竹林整備

日 4月20日(日)、曇り
場 県立21世紀の森 マダケの展示林
参 生長の家神奈川県教化部 17名(内 子供2名)
スタッフ 足柄グリーンサービス 磯崎所長 (*参照)
イ L 小沢⑨、渡辺③

曇り空のなかオリエンテーションを開始。インストラクターの紹介後、準備体操、本日の作業を説明。

ヘルメット及び竹林用鋸を付け現地作業場に着くもどこから手を付けたらよいのか迷う位の荒れようです。

竹の間伐時の注意等を説明しながら、まずは通路を確保して参加者全員が作業できる環境を提供した。

占めて1時間半ぐらいの間伐作業でしたがビフォー&アフターを見ると素晴らしい整備が出来た事を全員が確認でき笑顔で終了の挨拶が出来ました。

車道から山を見ると竹林内と同様に竹が倒れていま
す。次回の竹林整備に期待して21世紀の森を後にしま
した。

(記 小沢 章男 9期)

* (県立21世紀の森の所長が杉崎様から磯崎様に代わりました。
磯崎所長は私たちの会には所属していませんが神奈川県インス
トラクター6期生です。)

◆ 株式会社 カナエル 森林再生活動

日 4月23日(水)10時～13時、晴れ

場 県立21世紀の森 マダケの展示林

参 (株)カナエル CSR担当 取締役 佐野様他

社員 男性 16名 女性 5名 計21名。

スタッフ 足柄グリーンサービス 磯崎所長 (*参照)

イ L阿部⑧、村井⑨、

阿部リーダーから道具の使い方、竹の切り方、安全注
意、ストレッチを行い、1回以上経験のある16名はリーダ
ーが指導し、初めての参加者を村井担当する。

“マダケの展示林”は大雪の影響で今までうっそうと茂っ
ていたのが嘘のように倒れ、まともに立っている竹が数え
るほどの凄まじい状況でした。奥の散歩道を経験者が、
沢沿いの危険箇所から折れ曲がった竹をひっぱり上げ、
その枝葉の処理を初心者をお願いした。

正味3時間、初夏を思わせる暑い日だったが皆さん熱
心に取り組まれ、今回ほど「ビフォア・アフター」が明確に
なった活動はなかった。最後に鋸の整備をして無事終了。
今回初めて21の森から飲料を用意して下さった。毎回再
生活動に参加される企業の方への誠意として、気持ちの
良いものであった。

(記 村井 正孝 9期)

◆ トラストみどり企画課のイベント

「摘み草ハイキングで春を食べよう」

日 4月26日(土)9時半～15時、晴れ

場 丹沢・大倉周辺、民宿「どんぐり山荘」

参 「ミドリ」誌 愛読者 大人11名、子供1名

財 みどり企画課主任専門員 坂下様 内藤様

イ L村井⑨、小沢⑨

前々から摘み草の企画を窪田課長にお話をしていた
事が実り講師として2名が要請された。ネーミングも内容

もお任せのイベントでしたので、下見時に秦野ビジター
センターの長縄さんにお会いして「丹沢の自然について」
の展示説明を申し込み「摘み草ハイキング」に花を添え
ました。参加者皆さんでヨモギを摘んで重曹でアクを抜き
包丁で細かく切りすり鉢ですり耳たぶぐらいの柔らかさの
白玉粉にめり込ませてお湯でゆでる。ゆで小豆の缶詰で
お汁粉を作る。テーブルにはこの日のための手作り箸入
れ、椿の花模様のランチョンマット、美味しく頂きました。

● 参加されたご家族からのお礼のメールが財団に届き
ました。

・今日は、大変お世話になりました、〇〇家族です。

初めての参加で、小さい子供もいたため少し不安でしたが、スタ
ッフの方が、とてもよくしていただき、本当に楽しい1日になりまし
た。ありがとうございました。

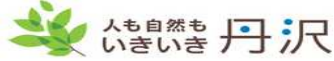
具体的には、

・子供に対し、インストラクターの方が、親切に草木が興味をもて
るように話しかけて頂いたり、ループを貸して頂いたり等々、子供
が飽きないよう接していただけたこと。

・何より、食べられる春の草を教えていただき、持ち帰っててんぷ
らでいただいたこと(とても実用的な知識でした。)

・インストラクターはじめスタッフの方のおかげで、全体の雰囲気
がとてもよかったこと、本当に、楽しかったです。また、参加させて
いただきます。ありがとうございました。

(記 村井 正孝 9期)



丹沢の自然再生に取り組む
丹沢大山自然再生委員会ホームページをご覧ください。
<http://www.tanzawasaisei.jp/>

投稿概略フォーマットと略語の説明

日：日付（できれば時間と天気も）

場：場所

参：参加者

県：(神奈川県自然環境保全センター・水源の森林推進課)

財：((公財)かながわトラスティみどり財団) 看：看
護師

スタッフ 例 小田原市森林組合・XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ：インストラクター (○数字：期) 研：研修
梓 (以下本文を概ね400字を目安として執筆ください)

やどりき水源林 ミニガイド

5月のトピックス

さまざまなウツギの花が咲いていました。



(ほんの一例です。5/18 小池撮影)

6月の水源林

ウツギ、アジサイのなかまが咲き誇ります。鳥も昆虫もたくさん来ています。うまくすればカモシカにも。川ではカジカ(蛙も魚)も待っています。

「森の案内人」情報

●実施時間: 毎週土曜・日曜・

AM10時・PM1時、1～2時間程度

●集 合: 水源林入口ゲート前

●内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ手入れなどについて説明致します。参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ: (公財)かながわトラス

みどり財団 TEL: 045-412-2255

携帯: 090-8580-5348

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

●E-mail: midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35～40 分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内

“やまなみ登頂スタンプラリー”

2014.4.1～2015.3.31



参加方法: 台紙でもスマートフォンでも参加OK、登山口で台紙を購入、スマートフォンでアプリを購入
達成方法: 登る、ひたすら登る、そしてスタンプを押す! スマートフォンでは撮影する!

www.kankou-hadano.org/tanzawayamanami/

秦野市観光協会 TEL(0463)82-8833

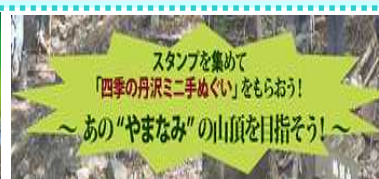
ニュースレター「しずくちゃん便り」

ホームページは下記URLで見ることができます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f7006/p23426.html>

かながわの水源環境の
保全・再生をめざして

かけがえのない神奈川の心を伝えるために



編集後記

★娘が母の日に「ごろごろ券」をくれました。ただし、朝は使えないそうです。一番ゴロゴロしたいのは朝なのに! (赤崎)

★足の怪我也もやっと治り、運動不足で太った体を、里山歩きで元に戻さなければと焦っています。 (水口)

★4人目の孫誕生ニュースが入り、嬉しくもあり、自分も前向きに生きて行かなくちゃと考えた今日この頃です! (小沢)

★里山の新緑も深い緑に変わりつつあるこの頃は畑ではスナックエンドウ豆の収穫も終わり、いよいよ夏野菜の枝豆、トマト、キュウリ、ナス等の苗が成長期を迎えます。今年も旨い野菜が食えます様に。 (徳岡)

★最近知った話です。熊は冬眠あけに水芭蕉の毒作用を利用し、それを食べて下痢をひきおこし体内の毒素やこびりついた脂肪を排出し、さらに大量のクマ笹も食べて体内を浄化させるそうです。人は真似しないで。死ぬかも。 (松本)

◇ 年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人: 松本 保

事務局: 竹島 明

広報部: 小沢章男 水口俊則

鈴木 朗 徳岡達郎 大塚晴子

加藤愛子 赤崎さほり 小川和恵

小池 哉

支援

伊藤恭造 川森健司

松田付近のイベント情報!!



2014年開成アジサイ祭り

6月7日(土)～6月15日(日)

<http://kaisei-ajisai.com/>

TEL サービス 0465-84-0311

散策、ボランティア活動の
お帰りにお越ください!!

～ お 食 事 処 ～

(もちろん冷たいお飲み物も)

こ ま ち

山 麓 の オ ア シ ス ③〇

小田急 新松田駅
踏み切り際

緑の募金箱協力店